市民記者が行く！ 広報サポーターレポート

市民レポーター

西尾祇園祭の表舞台と裏舞台 ～ボランティアの活躍～

広報サポーター
沖田和子さん（寺津町）

7月12日㈮～14日㈰の3日間、名鉄西尾駅周辺の市街地で西尾祇園祭が開催されました。祭りのメインである大名行列は六万石城郭城下町、400年の伝統を誇り、伊文神社の神輿渡御と並ぶ表六ケ町の伝統的な練り物（催し物）のひとつです。

表六ケ町とは城下町の中で豪商が多かった天王町、須田町、本町、肴町、中町、幸町のことで、地域によっては期間中に先祖代々伝わる大暖籠を揚げる商家も残っています。大名行列は肴町通りを午後6時にスタートし、総勢215名で3時間ほど市街地を練り歩きました。参加者は西尾小学校の児童、西尾中学校の生徒、ボーイスカウト、キララロータリークラブ、県・市議会議員や企業ボランティアなど大勢の方により行われました。各団体が「先手」「鉄砲持ち」「奴」「腰元」などの役割に分かれ、授業や仕事が終わってから集まり、本番に向けて練習をするそうです。衣装の着付けもボランティアにより行われます。参加した方は「町衆の心意気を楽しみ、市民として祭りを盛り上げるために一生懸命です」とおっしゃっていました。

▲大名行列の腰元によるなぎなた。皆さんりりしく元気いっぱいです。

大名行列でのボランティアは表舞台ですが、裏舞台で活躍しているボランティアもたくさんいます。

▲クリーンスタッフの皆さんです。祭りの終了まで作業は続きます。

大名行列がスムーズに進行できるよう観衆を整理する「人よけボランティア」、来場者が捨てるごみを分別処理する「クリーンスタッフ」などです。企業ボランティアや個人・団体のボランティアの皆さんによって行われました。私は「更生保護女性会」の一員としてクリーンスタッフに参加しました。午後2時30分に集合し各配置に分かれ、可燃ごみ、缶、ビンに仕分けしてゴミステーションへ運びます。祭りが最高潮を迎える午後6時ごろからはごみの量もピークになり、仕分け作業と運搬で皆さん汗びっしょりになっていました。最終の片付けは午後9時半過ぎまで。それでも「市民として当然の協力」と皆さん答えてくださいました。今回の取材でさまざまな方のお話を聞き、伝統行事を継承することの難しさを知るとともに、関係者のご努力に感動しました。

祭りは今年も大成功。来年も大勢の方々のご協力で盛大に行われることを楽しみにしています。

◀更生保護女性会のメンバーです。祇園祭のボランティア活動は5年目になります。

広報サポーターは公募により選ばれた市民記者です。これからも市民の目線で市内各地のイベントなどを取材していただきます。